

## 「東日本大震災」復興支援

ピープルズ・ホープ・ジャパン (PHJ) は3月11日に発生した「東日本大震災」直後から被災地で医療支援活動を行っている全日本病院協会 (全日病) を通じて被災地の皆様の支援を行うことを決め、3月15日に募金活動を開始しました。またPHJのスタッフが全日病の災害対策本部に駐在し、支援活動の調整を行っています。

6月末までに3,843万円の募金を頂きました。募金の用途はまず初めに全日病が派遣する医療救護班のために使うことを決め、6月4日に開催された全日病定期総会でPHJ 甲谷理事長から全日病西澤会長へ第1回支援金 (1,500万円) とIT機器・衣料品の目録をお渡ししました。6月30日までの募金についての報告は次ページの2011年度の事業報告をご覧ください。またホームページでも掲載しております。

個人、法人からのご寄付も引き続き活発で、7月からは被災した全日病の会員病院の復興のために募金を使わせていただいています。

### 企業・団体からの物品支援

H&M社からは62,000着の夏物衣料を寄贈していただき、被災地の103か所の病院や診療施設まで運送していただきました。これらの衣料は被災地の高校生や子供達、住民に大変喜ばれ、感謝状がいくつも届いております。

石巻港湾病院からは津波で失った医療機器、什器等の支援依頼があり、ノキア・ジャパン社を含む欧州ビジネス協会の会員数社が家具、什器等運搬費を含み現地へ届けてくださいました。



ノキア・ジャパン社から什器類を石巻港湾病院へ輸送



福島県立相馬農業高等学校の校長、教頭、生徒会長からの感謝状

## 巻頭言

## PHJの母子保健、災害支援活動にご協力をお願いします



PHJ 理事、PHJ代表  
木村敏雄

PHJは東南アジアのカンボジア、インドネシア、タイを主な活動地域として、母子保健や地域医療保健の改善のための支援活動を行っています。

本年3月11日の東日本大震災以来、PHJもこの災害支援活動に取り組んでいます。HOPE ジャパンニュース 2011 夏季号でもご報告の通り、PHJの法人会員である全日本病院協会 (全日病) と提携し、緊急支援として医療救護班の派遣のための募金を行い、多数の会員、非会員の皆様からご寄付を頂きました。PHJスタッフも全日病の災害対策本部に常駐し、また多くの被災地を訪ねて現地のニーズに合う支援を提供できるよう注力しています。頂いた募金の一部は6月4日に全日病にお渡しし、7月以降は病院機能の復興のための支援に使わせていただいています。

PHJの東南アジアの活動地域においても、PHJの支援を受けている恵まれない人々やPHJと提携

している医療、保健関係の多くの人々が、東日本大震災の被災者への募金や支援活動を展開してくれました。活動地のほとんどは上下水、電気・ガスなどのインフラもなく、衛生条件が極めて厳しい地域です。こうした地域で地道に粘り強く活動しているPHJ女性所長やスタッフたちの誠意と努力が高く評価されていることを改めて認識しました。また同時にこの支援事業をさらに推進していく必要と責任を強く感じています。

今回の災害支援活動を通してより多くの個人、法人の方々にPHJが認定NPO法人第1号として、東南アジアで母子保健を中心に教育支援活動を行い、着実に成果を上げていることにご理解を深めていただければと思っています。

新NPO法、新寄付税制が6月30日に施行されました。この新寄付税は、個人の方から認定NPO法人へのご寄付が大幅な税額控除を受けられるようになったことです。認定NPO法人であるPHJとしても歓迎しています。所得税からの控除、住民税の優遇と合わせて合計寄付額から2,000円を差し引いた金額の50%が税額控除されます。この優遇制度は2011年1月1日に遡って適用されます。どうぞこの優遇制度を活用し、PHJへのご支援に向けていただくようお願いいたします。

# ● FY2011 報告およびFY2012 計画 ●

## 2011 決算および 2012 予算

(単位: 円)

科目	2011 決算	2012 予算
<b>I. 収入の部</b>		
<b>1. 現金寄付</b>	<b>112,207,407</b>	<b>73,200,000</b>
法人	56,006,880	51,700,000
個人	7,954,840	8,200,000
パートナー	2,295,000	2,300,000
一時寄付	7,134,315	6,000,000
災害寄付	38,427,557	5,000,000
特別寄付	388,815	
<b>2. 商品寄付</b>	<b>58,727,801</b>	<b>126,000,000</b>
<b>3. 公的補助金</b>	<b>14,509,774</b>	<b>21,700,000</b>
<b>4. 預金利息</b>	<b>35,974</b>	
当期収入(現金)	126,753,155	94,900,000
当期収入(商品)	58,727,801	126,000,000
当期収入合計(A)	185,480,956	220,900,000
前期繰越(現金)	47,309,208	68,651,183
(商品)	0	0
<b>収入合計(B)</b>	<b>232,790,164</b>	<b>289,551,183</b>
<b>II. 支出の部</b>		
<b>1. 事業費</b>	<b>137,966,208 (84.1%)</b>	<b>215,900,000 (90.8%)</b>
現金	79,238,407	89,900,000
商品	58,727,801	126,000,000
<b>2. 募金活動費</b>	<b>20,251,542 (12.3%)</b>	<b>16,000,000 (6.7%)</b>
人件費	13,010,000	9,000,000
経費	7,241,542	7,000,000
<b>3. 管理費</b>	<b>5,921,231 (3.6%)</b>	<b>6,000,000 (2.5%)</b>
人件費	1,946,725	2,000,000
経費	3,974,506	4,000,000
<b>支出合計(C)</b>	<b>164,138,981 (100%)</b>	<b>237,900,000 (100%)</b>
現金	105,411,180	111,900,000
商品	58,727,801	126,000,000
<b>III. 次期繰越(B-C)</b>		
<b>1. 現金</b>	<b>68,651,183</b>	<b>51,651,183</b>
<b>2. 商品(在庫)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 2010 事業費内訳 (現金+商品)

単位: 円

支援事業	現金	商品	合計
インドネシア	15,362,892	1,790,622	17,153,514
カンボジア	17,183,759	12,109,219	29,292,978
タイ・ベトナム	28,161,336	7,059,550	35,220,886
日本(災害支援)	18,530,420	37,768,410	56,298,830
<b>計</b>	<b>79,238,407</b>	<b>58,727,801</b>	<b>137,966,208</b>

### 監査報告書

ピープルズ・ホープ・ジャパン

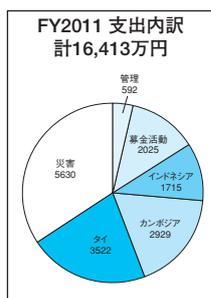
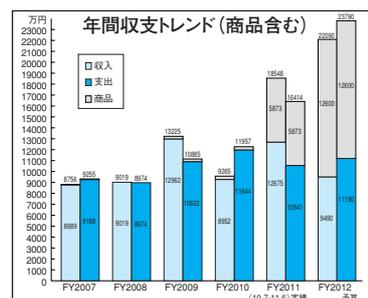
理事長 甲谷勝人殿

私はピープルズ・ホープ・ジャパンの2011年度の事業報告書および決算書を監査した結果、いずれも適正妥当なるものと認めます。

2011年8月5日 監事 植野道雄(印)

## FY2011 事業報告

### 1. 会計報告



## 2. 支援活動報告

### 概要

当期活動は東南アジア3ヶ国での支援活動とともに3月11日に発生した東日本大震災の災害支援にも軸足を置き活動を行いました。タイ・インドネシア・カンボジアの支援活動は順調に推移し、募金活動においても商品寄付、補助金を含めた収入計画10,407万円に対し実績10,925万円となり、支出については計画10,401万円に対し実績10,783万円とほぼ計画通りとなりました。

一方災害支援活動におきましては、多くの法人・個人の方々のご支援により災害募金収入3,843万円、商品寄付3,777万円となり、被災地への医療救護班派遣サポートや被災病院へのIT機器寄贈による支出は5,630万円となりました。

#### 2-1. 東日本大震災支援活動(総事業費 5,630万円)

PHJは震災直後から被災地での医療支援をいっている社団法人 全日本病院協会と連携して活動を行いました。被災地6月末までの3ヶ月半は主に医療救護班(のべ127班、482人の医師、看護師、その他医療関連職)の仮設診療所等への派遣サポートともに被災会員病院等の復興支援のため、第1回支援金1,500万円ほかパソコン300台、プリンター100台のIT機器や事務用品等の寄贈を行いました。PHJスタッフも数多くの被災地に赴き支援活動を行うとともに復興に向けたニーズ調査も行いました。

#### 2-2. タイ支援(総事業費 3,522万円)

##### ① HIV/エイズ予防教育

2010年度同様ピア教育者による教育を、対象範囲を低年齢層へ拡大し、チェンマイ県のパヤップ大学、チェンマイ大学、他3大学で実施。学生自らの提案でプログラムを推進できる体制も作りました。

##### ② 子宮頸がん・乳がん検診推進

2007年より3年計画で進めていた子宮頸がん予防プログラムは2010年10月で終了。引き続き、外務省の補助金によりチェンマイ県内6郡で、乳がんも追加した3年間のプログラムを2010年11月より開始。第一年度はサラピーおよびサンカンペン郡で、病院長のリードのもと、順調に活動が進んでいます。特に2010年4月に寄贈いただいたミニバス検診車が活躍し検診率を高めています。

##### ③ HOPE パートナー教育

1998年以来継続しているプログラムで、個人、企業の支援を得て、現在62名のドナーにより、63名の子供達および家族へ治療と教育・自立のサポートを行っています。障害児の家族向けケア教育のため「ラーニングセンター」の設立と運営も支援しています。

##### ④ 小児先天性心臓病手術

武蔵野市、多くの企業からの支援のもと、31名の子どもの心臓病手術支援をおこないました。また担当の看護師の研修、移動検診活動も実施しました。

##### ⑤ ベトナムハノイ乳がん予防教育

支援対象第四の国として、ハノイの現地NPOのネットワークを利用し、タイ事務所の経験を生かした、乳がん自己検診プロジェクトを2011年1月に開始。ベトナム進出の可否を見極めるテストプロジェクトです。

#### 2-3. インドネシア支援(総事業費 1,715万円)

##### ① バンタン州地域保健医療システム強化事業

西ジャワのバンタン州セラン県で、MDGs目標でもある安全な出産と子供の健康な発育をめざし、村レベルの診療所を中心とした地域医療連携システム強化事業を引き続き実施しました。研修を受けた助産師が能力と医療サービスを発揮できる診療所・分娩室の建設支援と、妊産婦・女性への保健啓蒙教育などです。「栄養改善活動」では、新設栄養給食センターで食育に重点を置いた啓蒙教育と地元食材を活用した調理教室を本格展開し、離島では海上交通の難題を踏まえて保健・栄養活動にも注力しました。

##### ② 水事業

母子健康プログラムの実施地には上水道設備はなく、生活水に使用される井戸水や雨水の水質はよくありません。診療所での安

全な水確保のため、昨年度の掘削経験を活かした事業を引き続き実施しました。

### ③感染症予防事業

前年度バリ州で鳥インフルエンザ感染予防啓蒙教育事業を実施し成果を挙げました。当地は、特に狂犬病の発生率が高く州保健局から対策への支援要請もあり、これに応える感染症の予防体制整備を支援しています。

### ④画像診断技術

インドネシア・ギアニア病院の医師・技師の画像診断技術を、派遣技師によりブラッシュアップする事業を継続実施しました。2011年度は教育対象者を診療所にも広げ、かつ教育日数も増やすなど充実させました。

### ⑤口腔衛生予防教育

今年度も東バリ地区の口腔衛生予防教育専門家を対象にした小児歯科技術の教育セミナーを開催しました。

### 2-4. カンボジア支援(総事業費 2,929 万円)

#### ① 母子保健 助産師トレーニング

2007年度よりプレイベン州のプレイベン保健行政区で、地域の母子保健の鍵を握る保健センター助産師が、適切な助産サービスに必要な技能を修得することを目標に地元の州病院産婦人科で実践的トレーニングを実施してきました。今年度は、ニアックルアン保健行政区で保健センター助産師8名を対象とするトレーニングを実施しました。

#### ② 母子保健改善プロジェクト(日本 NGO 支援無償)

これまでコンポントム州で展開してきた母子保健改善事業の実績とネットワークを活かし、2008年1月より3年事業として開始し今年度終了しました。農村部の保健センターが適切な母子保健サービスが提供できるようになることを目指し、終了時評価では、サービスの質の向上、サービス利用数も著しく増えるなど、事業成果達成を確認しました。

支援活動の  
写真



災害支援—東日本大震災  
気仙沼に派遣された医療救護班



タイ HOPE パートナー教育  
(支援している子供の水中リハビリ教育)



インドネシア 母子保健(栄養教育)



カンボジア 助産師トレーニング

## 2012年度 事業計画

### 1. 概要

東日本大震災支援については募金活動も継続し、前期からの災害募金繰越し金を含めて、全日本病院協会と連携して被災地の病院機能の復興支援を実施していきます。

一方 PHJ 主務の海外支援については、支援者(法人・個人)の寄付が災害寄付に回り、海外支援向けの寄付が少なくなっているが、募金活動にも知恵を出して積極的に行い、海外支援事業の継続・拡大に努力していきたい。

### 2. 支援活動

※ 2011年度と異なるプログラム内容を補足しました。

#### 2-1. 東日本大震災支援(総事業費 2,490 万円)

#### 2-2. タイ支援(総事業費 2,761 万円)

##### ① HIV / エイズ予防教育

従来の活動方法は最小限とし、過去10年以上にわたる教育効果把握のために、外務省の補助金を得て、効果測定を行うプロジェクトを進めます。

##### ② 子宮頸がん・乳がん検診推進

外務省の補助金3年事業では、2011年10月末に一年間のサラビー郡、サンカンペン郡での活動レビューを行い、チェンマイ総領

事館に報告し、11月より第2年度の活動をサンサイ郡、ドイサケット郡にて開始します。

##### ③ HOPE パートナー教育

##### ④ 小児先天性心臓病手術

##### ⑤ ベトナムハノイ乳がん予防教育支援

#### 2-3. インドネシア支援(総事業費 1,838 万円)

##### ① バンタン州地域保健医療システム強化事業

##### ② 画像診断技術

##### ③ 感染症予防事業

##### ④ 口腔衛生予防教育

#### 2-4. カンボジア支援(総事業費 1,901 万円)

##### ① 母子保健改善のための健康な村作り事業(日本 NGO 連携無償資金協力資金)

コンポントム州での事業は、FY12より3年「健康な村作り事業」として始まります。これまでの取り組みで保健センターサービスは改善されてきたので、村人の行動変容に焦点を当てます。村人から選ばれた保健ボランティア等が、母子保健活動の中心を担い、村人への保健教育を推し進め、母子保健改善を図ります。

##### ② 助産師トレーニング

## 第16回理事会、第14回総会

8月18日(木)東京千代田区にある如水会館で第16回理事会が開催され2011年度の事業報告・決算報告・2012年度の事業計画・予算、および役員一部改選が討議され、承認されました。議案は引き続き開催された第14回総会に付議され異議なく承認可決されました。

理事会、総会にはインドネシア所長伊藤、カンボジア所長中田も出席し現地の報告を行いました。タイの報告は担当の連見が行いました。



### ピープルズ・ホープ・ジャパン 役員

(敬称略 50音順)

2011年9月6日現在

理事長	甲谷 勝人	日本ヒューレット・パカード(株) 元社長
副理事長	田中 滋	慶應義塾大学 経営大学院 教授
副理事長	小田 晋吾	日本ヒューレット・パカード(株) 元社長
理事	川上 潤	GEヘルスケア・ジャパン(株) 代表取締役社長兼CEO
〃	後藤 幸子	武蔵野市民
〃	五月女光弘	外務省初代NGO担当大使、駐ソマリア大使
〃	庄田 隆	日本製薬団体連合会会長(第一三共(株) 代表取締役会長)
〃	清家 篤	慶應義塾 塾長
〃	中島 康雄	聖マリアンナ医科大学 放射線医学教室 教授
〃	西澤 寛俊	全日本病院協会会長(西岡病院理事長)
〃	松本 謙一	海外医療機器技術協会会長(サクラグローバルホールディング(株) 会長)
〃	溝口 文雄	横河電機(株) 社友
〃	木村 敏雄	ピープルズ・ホープ・ジャパン 代表
監事	植野 道雄	みずほコーポレート銀行元専務取締役

## インドネシアでの母子健康活動（活動名：地域保健医療システム強化事業）

2000年のミレニアムサミットでは世界の保健分野の問題点が討議され、2015年までに達成すべき目標が設定されました。現在各国政府機関や保健分野の国際NGOは、この目標達成に焦点を合わせた活動を展開しています。（この活動を総称してMDGsと称す。）

PHJインドネシアも、2001年から次の活動テーマをMDGs目標達成と定め、保健省・ユニセフなどと協力して事前現地調査を行って保健指標の悪い国内3候補地からバンタン州セラン県を選び、2004年からMDGs目標の乳幼児死亡率の削減、妊産婦健康状態の改善に取り組んでいます。2009年度には、上記2つの死亡ケースゼロを達成しましたが、残念ながら2010年度も、とはいきませんでした。手ごたえは感じています。

この活動は、教育・ハードシステムの3つの活動からなっています。5才未満児の調査（誕生日把握・身長・体重計測・健康調査）と妊産婦の健康調査と健康台帳整備から始め、乳児身長計の手作りも経験しました。現在は活動を最も協力的な1自治区（14村、人口4万5千人、5才未満児3千800人、16-35才女性8千900人）に絞り、セラン県のモデル地区作りを目指しています。教育（ソフト）と医療設備の整備されたハード（分娩・栄養・井戸・小児保健保育）のバランスを考えながら、住民・行政の方々の協力を得て改善を

積み重ねています。（PHJスタッフ2人、無給現地スタッフ20人、ヘルスポランテア100人）

何よりも嬉しいことは活動の中心である村駐在の助産師さんたちの熱心な協力で良好なチームワークは頼もしく、宗教・風俗・習慣・貧困・迷信・衛生環境等まだまだ多くの課題がありますが、わが子の健康とお母さん自身の健康を守りたいとの強い願いに応えるために、皆さまの息の長いご理解・ご支援をお願い致します。東京事務所 小林

活動の歩みと仕組

		年度			
		2000	2004	2007	2011
活動トピックス		MDGs宣言			
事前調査		← →			
事業起案		← →			
事業開始・実施		☆			
教育	母子健康教育 (月例ワークショップ助産師・産婆・妊産婦)	----->			
	栄養改善教育 (栄養補給給食)	----->			
	(栄養クリニック、調理教室、郷土メニュー考案、菜園開発)	----->			
ハード	分娩設備・施設整備(件)	--> 1 1 1 3 3 1			
	同上用井戸整備(件)	--> 1 2 3 1			
	小児保健保育センター(件)	--> 1 1 1 1			
	栄養教育センター整備(件)	--> 1			
システム整備(件)(献血・出産費積立・助産師ネットワーク...)		-----> 3			
対象地域(自治区数)		5 4 → 2 → 1 →			
成果	安全な(医療施設)出産率(%)	0 → 3.8 → 41			
	栄養不良児率(%)	6.2 → 1.5 → 0.13			

## カンボジア：ティポー保健センターの現状

7月下旬、私たちが支援してきた保健センターのひとつティポー保健センターを訪ねました。コンポントム州都にあるPHJの事務所を7時半過ぎに出て、舗装された国道6号を南下し、途中から未舗装の道で揺れること約1時間、9時頃に到着しました。

保健センターの前庭には、患者のバイクや自転車が停めてあり、待合室には16名の村人がいました。乳飲み子を抱えたお母さん、お腹の大きい妊婦さん、風邪をひいた大人もいました。病室に入ると、昨日出産したという母子が身を横たえていました。

私にとっては2年振りの訪問で、以前は、待合室に患者の姿がほとんどなく、スタッフが手持無沙汰に座っていましたが、今回は、スタッフがテキパキ動いて診察や投薬を切り盛りしていました。

村人が保健センターを利用ようになった理由を、待合室で聞いてみました。3年前に利用したことがあるかという質問には、手を挙げた人はいません。年配の夫婦は「以前は存在すら知らなかったので15

キロ先の病院まで行かねばならず大変だった」、妊婦さんは「今は、近所の口コミ、保健ボランティアや村に予防接種に来た保健センタースタッフから聞き、来るようになった」と答えました。保健ボランティアや保健センタースタッフはPHJが育成してきた人材です。

支援してきた保健センターが、多くの村人に使われ、サービスを提供しているのを確認でき、嬉しくなりました。行政による保健統計も、このセンターが、より多くの村人に利用されるようになったことを示しています。東京事務所 石関



《ご挨拶》 10月1日付、カンボジアを離れ、公衆衛生を学ぶために1年間ロンドンに留学することになりました。5年間の駐在中は、皆様の応援が心の支えで

した。大変感謝しております。これからも後任の久米由美子さんと PHJ のカンボジア事業を応援してください。カンボジア事務所 中田

## タイ HOPE パートナー事業、6月に10名の卒業生

HOPE パートナー教育事業では、障がいや慢性疾患を患い定期的に治療を必要とする子供たちを、医療・教育面で支援しています。長い闘病生活を終え健康を取り戻したり、成人となり経済的に自立した10名の子供たちが6月に一斉に卒業することとなりました。

ここでは2名の卒業生をご紹介します。地中海貧血を患っていたヌームくんは、両親と、同じ病を抱える妹の4人家族です。2001年からPHJのサポートを受け、病院での治療と教育を受けてきました。当時はいつも顔色が悪く、疲れやすかったヌームくんですが、定期的に薬を飲み、また時には輸血などの治療を受けるにつれ、少しずつ病状は良くなってきました。そんな彼は、20歳を迎えた2011年4月に専門学校を卒業し、地元のコンビニエンスストアの職員となりました。自分の治療費を賄えるようになり、また健康状態も当初より改善したことを受け、彼は10年間サポートを受けたHOPE パートナー教育事業から卒業することとなりました。

もう一人ご紹介するファーストちゃんは、会社員として月6,000 バーツ（約1万6千円）の給与で働く父と主婦の母との3人家族です。喘息を抱えていたファーストちゃんは、2008年からPHJによるサポートを受け

ていました。当初はよく体調を壊し、鼻腔用スプレーを手放せず、病院に入院することもしばしばでしたが、定期的な治療を受けることで喘息を克服できたため、今回の卒業が決まりました。PHJの活動にいつも積極的に参加してくれていた両親は「娘が喘息を克服できたこと、うれしく思っています。PHJのサポートがなければ娘がどうなっていたか分かりません。」

現在、保育園の年長組に通っているファーストちゃんの将来の夢は、ミス・タイランドになることだそうです。健康を取り戻した子供たちの今後の人生が楽しみです。

10名をサポートして頂いたパートナー会員の皆様、ありがとうございました。今後とも新しい患者のご支援の程よろしくお願いいたします。

PHJ タイ・ホープ・パートナー事業担当 ミント



ヌームくん



ファーストちゃんとお母さん

### 五月女理事



### Vol.4 長寿世界一はめでたいことですが



国連によると、今年の10月に世界の人口は、70億人を突破し、2050年に93億人、2100年には101億人を超えるそうです。医療のレベルが上がり乳幼児の死亡率が減少、長寿の人々が増えていくからだと言われています。アジア・アフリカの途上地域の人口増加が著しく、日本を含む先進地域は、減少または横ばいで、2050年における人口は、先進地域が13億人、途上地域は80億人に達する由です。

人類の寿命は伸び続けており、現在世界一の長寿国である日本人の寿命も更に伸び続けていきます。厚生労働省が発表した2009年の簡易生命表では、男性が79.59歳、女性が86.44歳でした。しかし2050年には推定では、男性87.37歳、女性が90.9歳になるそうで、なぜか男女の差が縮まるように見られます。皆さんそろって元気で長生きしていただきたいものです。

さて、年齢についての興味深いお話を耳にしました。京都の医学者である山田博先生によれば、

人間には「戸籍年齢と生理的年齢」があるそうです。例えば、戸籍上45歳で元気澁刺の人は生理年齢39歳、疲れて元気のない人は生理年齢51歳でプラス・マイナス6歳、つまり12歳の差になるそうです。そして同じように戸籍年齢75歳の人では、その差は更に大きく、プラス・マイナス9歳、生理年齢では66歳と84歳になってしまうのです。

世界的に考えれば、人間の健康や寿命は、自然環境、食糧、水、医療など様々な要因に影響されます。「悩める人を思いやる心を持つことは、富める人の務めである」つまりノープレス・オブリージュです。「人を国」と置き換えてもいいでしょう。日本人も自国の長寿を喜ぶだけではなく、全ての人々が健康で安全な生活を営めるように協力していきたいものです。



五月女光弘（さおとめみつひろ）  
外務省初代NGO担当大使、元  
命全権大使、文藝春秋ベストエッセイストの一人、PHJ理事他。

## 会員のひろば

### 「欧州ビジネス協会から PHJ 会員の皆様へ」 事務局長 アリソン・マリー

欧州ビジネス協会 (EBC) を代表して PHJ の会員の皆様にご挨拶いたします。私たちは 2001 年に初めて PHJ の代表にお会いして以来ずっと緊密な関係を築いてきました。EBC は在日欧州 17 か国の商工会議所や企業のために通商政策を取り扱う機関です。創立は 1972 年、在日欧州企業 3,000 社の経営陣 400 名で構成される 30 の産業別委員会が貿易や投資環境の改善のために活動し、日本政府には在日欧州 (連合) 商工会議所として登録しています。

EBC は理事会 (各国商工会議所会頭); 執行委員会 (会長、副会長 2 名、関連する団体の代表、30 の委員会の委員); 事務局 (事務局長の下、EBC の活動を調整) より構成されています。EBC の各委員会は会員が抱える課題や意見を反映し、独自の活動を行います。現在医療・健康に関しては医療機器と診断の二つの委員会があります。

私は在日 27 年になりますが、日本の人々と企業が世界各地での災害や発展途上国の開発に熱心に寛大に支援することに強い印象を受けてきました。日本人は度々の困難を乗り越えてきましたが、今年 3 月 11 日の大震災でさらに大きな試練にさらされました。EBC の会員は東北大地震での日本の皆様の対応、反応に感嘆しました。

被災者支援の為に団結し、福島原発事故の問題に対処する姿勢は世界中の賞賛を浴びました。最も驚いたのは冷静に、秩序と寛大さを持って苦しむ人々に接したことでした。

特に EBC は大震災直後 PHJ が全日本病院協会と提携し被災地への医療救護班の派遣支援を決めたことに賛辞を惜しみません。EBC が被災地支援の募金を決めた時、長く友好関係がある PHJ を寄付先に選んだのは当然でした。また PHJ からの要請で石巻港湾病院へ家具類の寄贈を通して被災地を支援することもできました。今後もお手伝いできれば幸いです。

EBC は PHJ との連携を誇りに思います。又 EBC の医療関係の会員が PHJ の法人会員になっていることも嬉しい限りです。今回国際医療支援 NPO である PHJ を通して東北地方の被災者と世界で支援を必要としている人々のお役にたてたことを嬉しく思います。



東日本大震災支援募金 EBC から PHJ への寄贈式 2011 年 6 月 16 日、ヨーロッパハウスにて (右から アリソン・マリー事務局長、小田 PHJ 副理事長、矢崎 PHJ 広報、大河内 PHJ 募金、トミー・クルバーク EBC 会長、デューコ・デルゴージュ EBC 副会長)

## PHJ 新スタッフ紹介



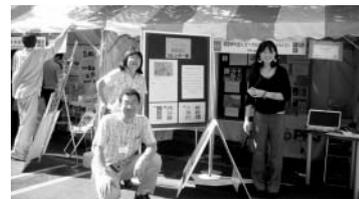
カンボジア  
所長代行  
久米由美子

私は今までに看護師として勤務していましたが、国際保健にも興味を持つようになり、ここ数年は活動地を求めて海外を拠点としていました。昨年、カンボジアで他団体でのインターンを経験し、同じアジアでも日本から飛行機でわずか数時間の場所に、まだまだこんなところが残っているのかあ、と保健医療事情の悪さを再確認。例えば、普通のお産の後でもちょっと出血が多かったりしたら、命の危機に直面することになる。日本でなら、「はい、出血部位確認して、点滴して…」ってその場で治療できて、カンボジアではそうはいかない。特に自宅出産や保健センターでの出産が多い田舎では、出血多いけど病院に行かなきゃダメかな？ お金いっぱいかったらどうしよう？ と躊躇しつつもなんとか決断し、今度は、車はどこの村に？ 現金ないけど車代はどうしよう？ と足を探す。さらに数時間かけて病院に着く頃にはかなり重篤な状態に。しかもその病院で対応できるだけの人材と設備があるとは限らない。到着したら「ああ…うちでは診れないよ。」ってことも。環境さえ整ってれば普通に救える命があるのに、と思うと悔しくなります。一方で NGO など国際援助機関が多く介入しているにも関わらず、田舎の良さがまだ残っているカンボジアに惚れ込んでしまいました。そんな時に今回 PHJ のカンボジア事務所働くチャンスを頂き、またカンボジアに戻れることになりました。カンボジアの保健医療状況の底辺が少しでも上げられるように、現地で力を発揮していきたいと思っています。

## この秋、PHJ はカレンダー展を開催します。

### ●グローバルフェスタで…

10 月 1 日 (土)、2 日 (日) 東京 日比谷公園で開催される国内最大の国際協力イベント「グローバルフェスタ JAPAN2011」に PHJ は『アジアの母と子をささえる ピープルズ・ホープ・ジャパン』として出展します。PHJ のブースはブルーエリア (B) 5 番でカレンダー展を開催します。「アジアのおおなしカレンダー 2012」に応募いただいた絵の展示とともに、PHJ の支援活動を写真などでご紹介。当日は 1000 円募金につきカレンダー 1 部をその場で差し上げます。ぜひお越しください。



2010 年の PHJ ブース

### ●むさしの国際交流まつりで…

11 月 20 日 (日) 武蔵境スイングホールで開催されるむさしの国際交流まつりでも PHJ はカレンダー展を開催します。こちらでは絵の展示のほか、東南アジアのおとぎ話の読み聞かせ & お絵描きワークショップを予定しています。



2010 年のワークショップの様子